

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立西与賀小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成29年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

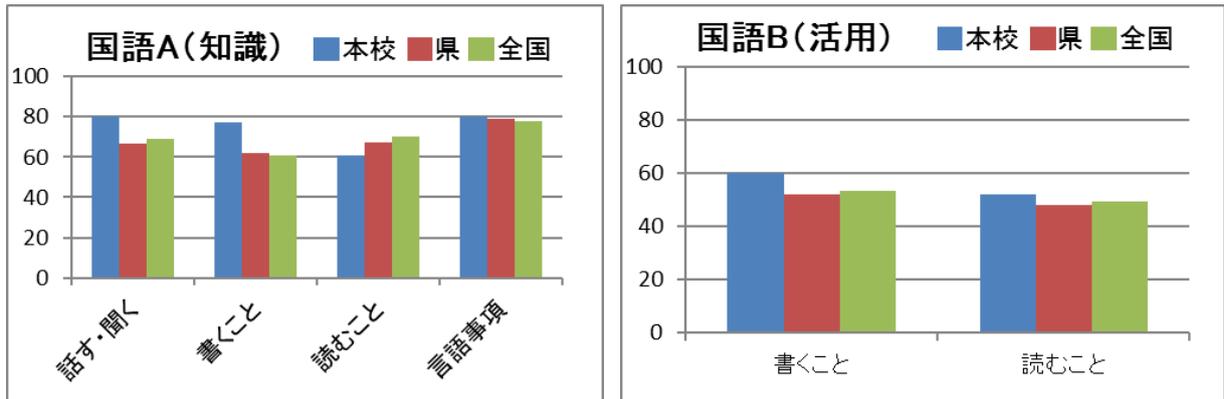
全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国正答率との比較



国語 A では、「話す・聞く」「書くこと」の領域で、全国平均を大きく上回った。しかし、「読むこと」に関しては県・全国平均を下回っている。

国語 B では、「書くこと」「読むこと」ともに、全国平均を上回った。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う問題の正答率が高かった。

書く

・何とか記述をしようとしていることが無回答率が低いことから分かった。目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話したり、目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える問題の正答率が低かった。

読む

・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える問題は正答率が高かった。しかし、自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えたり、具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめたりする問題の正答率が低かった。

言語事項

・漢字の読み書きや、ことわざの意味を問う問題は、ほぼ県平均と同じだった。スキルタイムや宿題の効果が見られていると分析する。今後は、いろいろな言葉を使える語彙力をつける必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

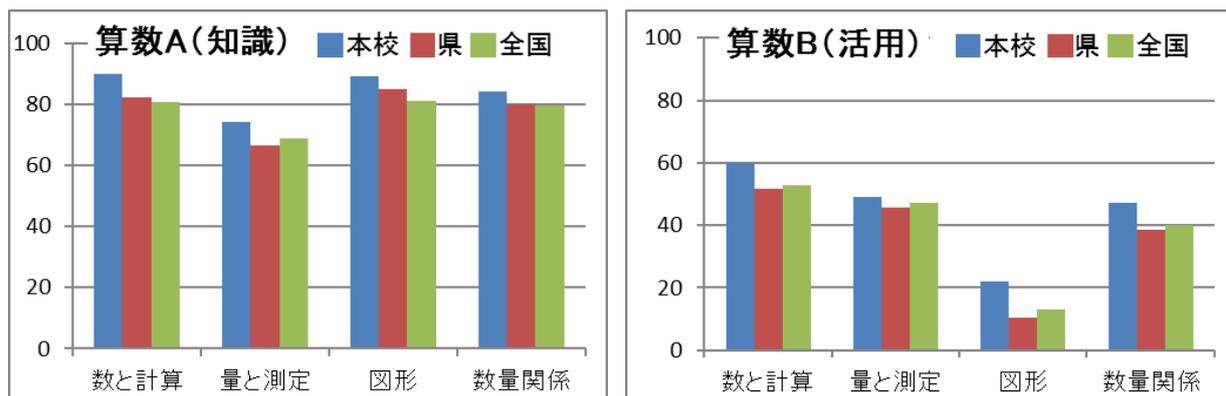
- 朝の読書や読み語りの時間に、要点をまとめる活動や感想を書く活動を取り入れます。さらに、本に親しんだり落ち着いて学習に臨んだりする習慣を全校で育みます。
- 授業をはじめ様々な行事などでも、考えを表現し意見交流する場を数多く設定し、相手の話の主旨を正確に捉え、自分の意見を表現できるコミュニケーション力の習得をめざします。
- 自分の考えをノートに書き表す場面では、相手意識を持たせ、より分かりやすく考えをまとめる力の習得をめざします。

【ご家庭では】

- まずは音読が基本です。音読を毎日聞いてあげましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- お子さんとの会話を楽しみましょう。共感したり、根拠を尋ねたり、互いの考えを交流しましょう。
- 読書のジャンルを広げてあげましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

(1) 結果

全国正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題、活用力を問うB問題ともに、全国平均を上回っている。しかし、理由や方法を記述する問題には課題が見られた。筋道を立て、適切に記述する力を身に付けさせる必要がある。

(2) 成果と課題

数と計算

・どの問題も正答率が高かった。毎週行っているスキルタイムの効果が大きいと考える。今後も、子どもたちの自信になるよう継続したい。一方、加法と乗法の混合した整数と小数の計算は県平均と同様に課題が見られた。

量と測定

・さまざまな図形の底辺と面積の関係についての問題では正答率が高かった。しかし、仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できた子どもは少なかった。

図形

・多角形の面の構成や立方体の面と面との位置関係についての問題は正答率が高かった。しかし、身近なものに置き換えた基準量と割合を基に比較量を判断し、その理由を記述する問題の正答率は低かった。

数量関係

・選択肢を選ぶ問題では正答率が高かった。しかし、示された式の中の数の意味を表と関連付けながら正しく解釈し記述する問題など、記述式の問題の正答率が低くなる傾向が見られた。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 今年度も、ドリル的な内容と、現在学習している内容を織り交ぜながら、朝のスキルタイムで、基礎・基本の四則計算の定着をめざします。
- 授業では、友だちの意見を繰り返し言ったり、言い換えたり、付け加えたりまとめたりする言語活動（「学びタイム」）を多く取り入れ、みんなで理解を深める学習活動を全学級で実践します。
- ICT機器の利活用、TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、問題を解くのにどれくらい時間がかかっているのかを知るために、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通しましょう。そしてたくさん励ましや称賛の言葉をかけてあげましょう。
- 算数好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせるのが一番です。生活場面で算数を使ってみましょう。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》 ※「あてはまる」と答えた割合

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか？	90.4	87.0
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか？	50.0	38.2
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか？	44.2	58.9
平日2時間以上テレビを見る。	42.3	55.7
平日2時間以上ゲームをする。	23.1	31.1
平日読書を30分以上している。	26.9	36.5
平日読書を全くしない～10分未満。	19.2	36.6

就寝・朝食については全国平均を上回り、「早寝・朝ごはん」の生活リズムも概ねできているようである。しかし、起床に関しては課題が見られる。遅刻や不登校傾向は見られないものの、今後も「生活パワーアップ週間」の取組などで、生活習慣の向上を目指す必要がある。

テレビやゲームについても、全国平均より良い結果であったが、まだ長時間のテレビやゲームが常習となっている児童もいるようである。家庭と連携しながら指導していく必要がある。

読書については、習慣化している子どもの割合が低い結果となった。家庭での時間の使い方を考えさせるとともに、読書の楽しさを味わわせる取組を充実させていく。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校 %	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	26.9	27.1
平日1～2時間勉強している。	48.1	37.3
平日0～1時間勉強している。	25.0	32.7
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	96.1	96.9
家で、授業の予習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	48.1	41.0
家で、授業の復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	61.6	53.8

学習時間は、約27%の児童が2時間以上と答えているものの、まだ1時間未満の児童も約25%おり、かなり個人差が見られる。予習・復習についても個々の意識に差があり、これが学習時間の差に直結していると思われる。今年度からスタートした「自学がんばる週間」を活用しながら、家庭学習の質的・量的な充実を図るとともに、主体的に家庭学習に臨む態度を育てていく。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学習（自学）についても重点週間を設け、全校で取り組みます。お手本になる自学ノートを掲示したり、放送等で称賛したりしながら、学校全体の機運を高めていきます。
- 「生活パワーアップ週間」を利用して、よりよい生活習慣と家庭学習の習慣を身に付けさせることを目指します。結果の分析および公表を通して、学校全体で課題と改善策を共有し、ねらいとする子どもの姿を目指していきます。

【ご家庭では】

- 学習の様子について話題にする、学習中はテレビを消すなど、学習に臨むための環境を整えてあげてください。そうすることが、本人の意欲や主体性の支えとなります。
- 「手は離しても、目は離さない」子どもたちの成長や様子に応じて、関わり方を変化させましょう。小さな努力や成長を大きく評価してあげることが、更なる意欲につながります。